

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

世界の競馬と馬産の最前線で活躍する人馬を紹介するこのコラムの、今月の主役は、英國のニューマーケットで供用されている種牡馬ドゥバウイ(牡20)である。歐州を代表するトップサイヤーとして長年君臨してきたこの馬を、なぜこのタイミングで取り上げるのかと言えば、22年の英國と愛国におけるサイヤーランキングで同馬が首位に立つことが、確実になってからだ。そして意外にも、ドゥバウイがリーディングサイヤーの勲章を手にするのは、これが初めてなのだった。

この原稿を書いているのは11月半ばで、したがって22年のシーズン終了まで1ヶ月半ほど期間を残している。その一方で、11月5日のドンカスター開催をもつて英國における芝平地のシーズンが、11月6日のネース開催をもつて愛国における芝平地シーズンが、それぞれ終了。あとは年末まで、英國のリングフィールドやウルヴァーハンプトン、愛国の大ンドークなどで、オールウェザートラックを使った平地開催が組まれているが、そこに高額な賞金が用意されたレースはない。

そういうわけで、640万ポンドあまりの賞金を取得し首位に立つドゥバウイが、530万ポンドあまりの賞金を取得し2位につけているランケルに逆転される可能性はなく、ドゥバウイの初リーディングが確定したのだ。

ドゥバウイの父は、20世紀の最終盤に出現した天才アスリート・ドバイミレニアムだ。同馬は01年4月にグラスシックネスという奇病を発症し、5歳で早世。父としては01年生まれたたった一世代しか産駒を残せなかつた。その、56頭しか生まれなかつたドバイミレニアム産駒の1頭が、ドゥバウイなのだ。

現役時代は8戦5勝。2歳時にG1ナショナルS(芝7F)、3歳時にG1愛二千ギニー(芝8F)、G1ジャックルマロワ賞(芝1600m)を制したドゥバウイは、父の血を継ぐ貴重な後継馬として、06年にダルハムホールスタッドで種牡馬入りした。

07年に生まれた初年度産駒が走り始めるや、世界各地で実に多彩なタイプの活躍馬が現れて、関係者を驚かせた。まず地元・英國で、G1英二千ギニー(芝8F)など2つのG1を制したマクフイ、G1クイーンエリザベス2世S(芝8F)を制したボエツヴォイスらが出現。北米に移籍したドゥバウイハイツが、G1イリオーリボンS(芝10F)など2つの北米G1を制し、香港に移籍したラッキーナインが、香港の年度代表馬となり、のみならず、モンテロッソ、プリンスピシヨップと、ダートのG1ドバイワールドC(d2000m)勝ち馬が2頭も出現したのだ。さらに、シャトルされた豪州で生まれた産駒から、シーク

ドゥバウイの父は、20世紀の最終盤に出現した天才アスリート・ドバイミレニアムだ。同馬は01年4月にグラスシックネスという奇病を発症し、5歳で早世。父としては01年生まれたたった一世代しか産駒を残せなかつた。その、56頭しか生まれなかつたドバイミレニアム産駒の1頭が、ドゥバウイなのだ。

現役時代は8戦5勝。2歳時にG1ナショナルS(芝7F)、3歳時にG1愛二千ギニー(芝8F)、G1ジャックルマロワ賞(芝1600m)を制したドゥバウイは、父の血を継ぐ貴重な後継馬として、06年にダルハムホールスタッドで種牡馬入りした。

07年に生まれた初年度産駒が走り始めるや、世界各地で実に多彩なタイプの活躍馬が現れて、関係者を驚かせた。まず地元・英國で、G1英二千ギニー(芝8F)など2つのG1を制したマクフイ、G1クイーンエリザベス2世S(芝8F)を制したボエツヴォイスらが出現。北米に移籍したドゥバウイハイツが、G1イリオーリボンS(芝10F)など2つの北米G1を制し、香港に移籍したラッキーナインが、香港の年度代表馬となり、のみならず、モンテロッソ、プリンスピシヨップと、ダートのG1ドバイワールドC(d2000m)勝ち馬が2頭も出現したのだ。さらに、シャトルされた豪州で生まれた産駒から、シーク

レットアドマイアラー、タイガーティーズといった豪州のG1勝ち馬が出現。なおかつ、南アフリカでデビューし、G1ガーデンプロヴァンスS(芝1600m)などを制したハッピーアーチャーまで現れたのである。

その後も活躍馬を送り出し続けたドゥバウイは、13年に英愛サイヤーランキンゲで初のトップ3入りを果たし、以降はコンスタントにその地位を維持。そしてついに、G1英二千ギニー(芝8F)やG1セントジェームスパレスS(芝7F213Y)を制したコリーバス、G1プラティナムジュビリーS(芝6F)を制したネイヴァルクラウン、G1セントレジャー(芝14F115Y)を制したエルダー・エルダーローラが出現した22年、念願の首位に躍り出たのである。

繫養先のダルハムホールスタッドから、11月8日に23年の種付け料が発表され、ドゥバウイは前年より10万ポンド値上げされた35万ポンド(約5950万円)で供用されることが明らかになつた。同日にはヤドモントから発表された、21年の英愛リーディングサイヤー・ランケルの種付け料が27万5千ポンドで、北米最高のイントウミスチフが25万ドル(約3687万円)だから、ドゥバウイは種付け料の分野でも、世界の頂点に立つている。